第１ブロック　防災・危機管理

大木　聖子（Satoko Oki）委員

慶應義塾大学　環境情報学部　准教授

北海道大学理学部地球惑星科学科卒業、東京大学大学院理学系研究科にて博士号を取得後、カリフォルニア大学サンディエゴ校スクリプス海洋学研究所にて日本学術振興会海外特別研究員。 2008 年 4 月より東京大学地震研究所助教、2013 年 5 月より現職。

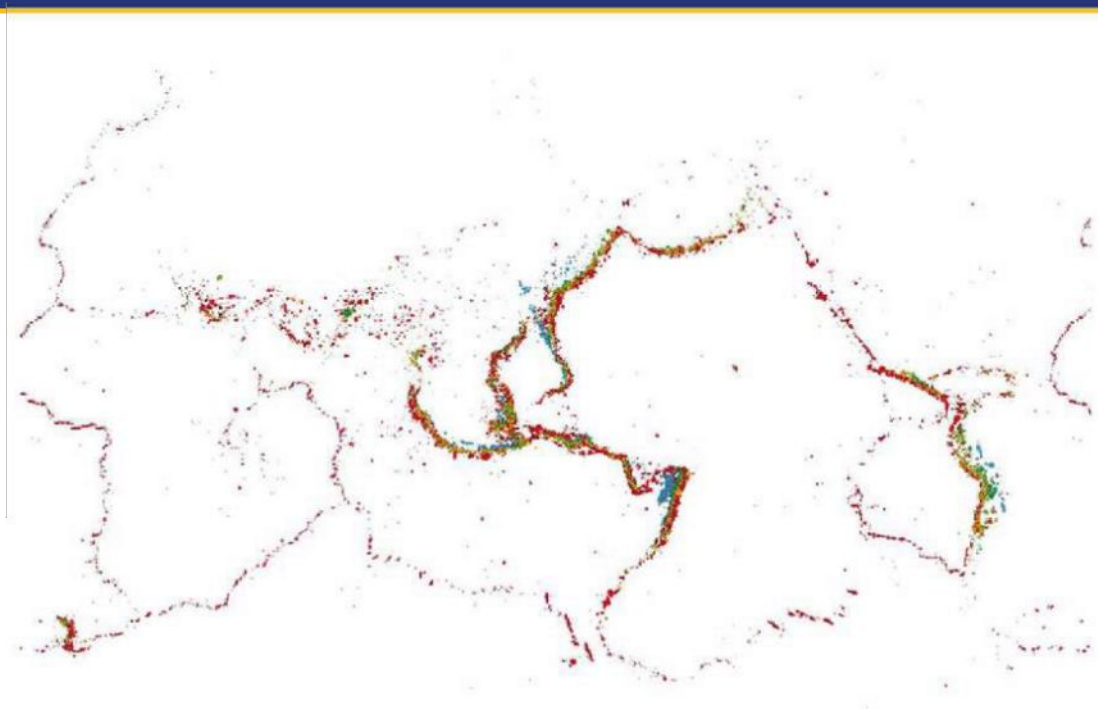
MINATOビジョン・シンポジウム
『防災・危機管理』

慶應義塾大学 環境情報学部

准教授　大 木　聖 子

- 阪神･淡路大震災をきっかけに地震学者を志す
- 東京大学大学院にて博士号を取得（固体地球物理学）
- 現在は防災教育･理科教育･災害情報について実践研究
- 文部科学省安全教育有識者会議･防災庁設置準備アドバイザー会議等の委員

これは何でしょう？



©東京大学地震研究所・東京カートグラフィック株式会社

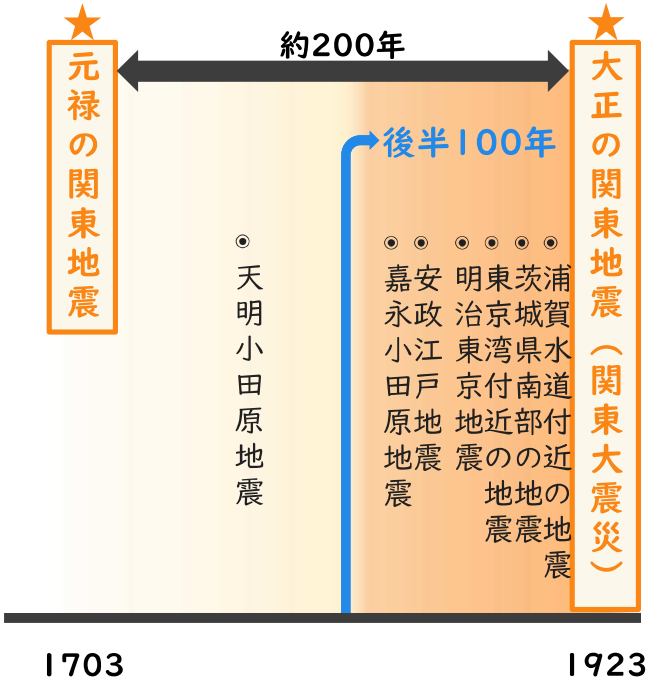
世界震源地図

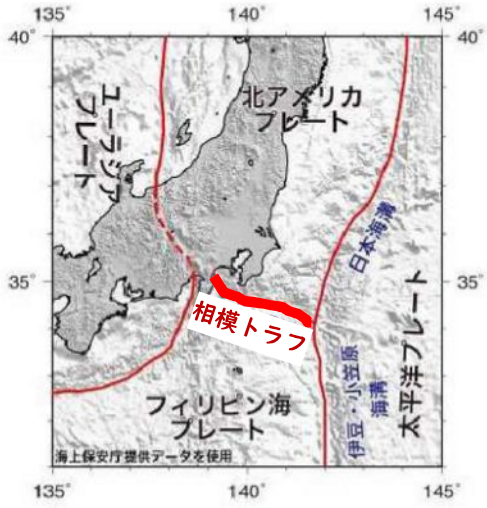
©東京大学地震研究所・東京カートグラフィック株式会社

3

地震リスク①： 首都直下地震

内閣府中央防災会議資料を基に作成





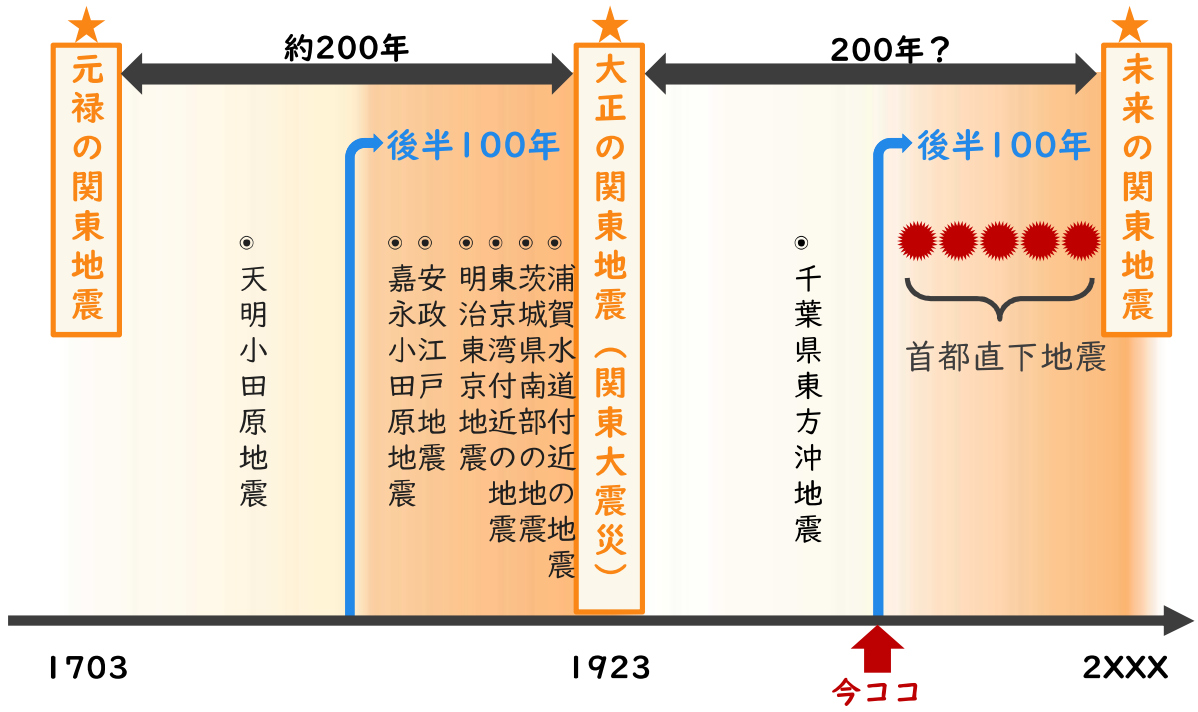
© 地震調査研究推進本部

4

地震リスク① ： 首都直下地震

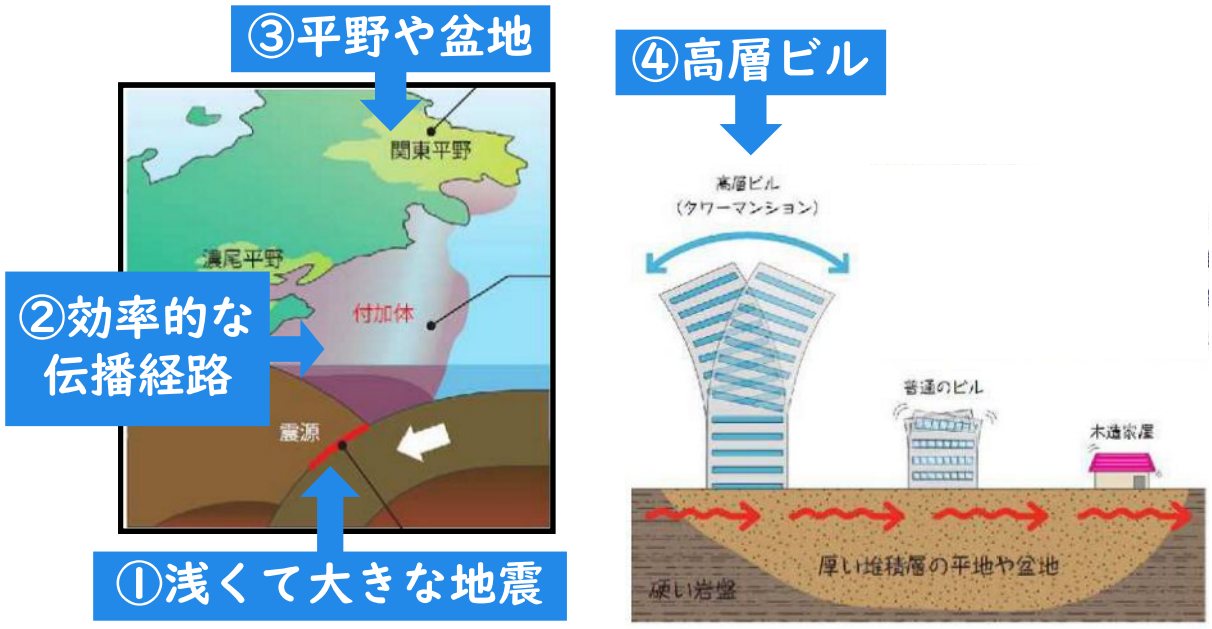
内閣府中央防災会議資料を基に作成

内閣府中央防災会議資料を基に作成



地震リスク②： 南海トラフ巨大地震

高層ビル・タワーマンションに大きな被害をもたらす



地震リスク③： 帰宅困難者の二次被害

©内閣府 防災情報のページ 7

そもそもの犠牲者・傷病者を減らす

地震そのものは人を殺さない

- 地震が起きること自体は問題ではなく，対策を実施しているかどうかが本質的に重要
- 技術的には解決済み．個々人が防災の主体となれるか

強震動	耐震化（耐震化のための経済支援）・**家具固定**
津波	高台移転・高台避難
火災	難燃化・**初期消火**
帰宅困難	**帰宅を抑制する**
関連死	避難所の衛生問題

教育
防災教育
防災教育
防災教育

8

未就学児の防災はマルチ世代に効果

■ **保育現場は防災教育のポテンシャルが高い**

① 平時から,「命を守る」ことが重要な職務項目

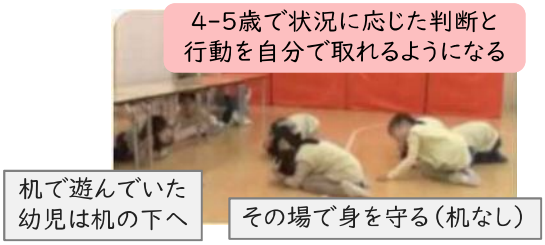
② 現場裁量のある保育指針・ゆとりあるカリキュラム

③ 幼児教育は防災教育と親和性が高い
（「学力」よりは「生きる力を育むこと」に注力）

④ 保護者の関心・参画がある
（「速やかにお迎えに」文言の改訂 → 帰宅難民抑止効果）

⑤ 祖父母世代の行動変容を促せる（孫が幼い → まだ超高齢ではない → 自ら備えられる）

⑥ 幼児の学習能力・適応能力・共助能力が高い



管轄部局の縦割りを乗り越え，多様なステークホルダーが参画しよう

小中学校での防災教育：実効的避難訓練

■ 余震あり・停電あり（放送設備使用不可）・傷病者あり,の訓練

■ けが人設定は安全担当教員と各クラスの学級委員しか知らない

うまくやるための訓練ではなく，全員が生き抜くためには
どうしたらいいかを，教職員と生徒が協力して探究するための訓練

※ 主体的・対話的で深い学び（H30～ 新指導要領）

ステークホルダー（港区・事業所・区民）に期待すること

- 2040年（15年後）の港区：
  - 「お母さんが子供の頃は，地震で人が亡くなってたって本当？」と子供たちが言う時代に！
    - 技術的には既に可能（耐震化・警報システム etc）
  - 「自分の問題だ」というマインドセットと防災実行を，行政だけでなく，事業所や個々人が持てるかどうか
- 防災を（目的にせず）手段にして，コミュニケーションを増やす．
- **良い防災は日常をより豊かにする**．多様性があることがコミュニティをより強くする．

11